

## 目次

- ① 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況  
ニーズアンケートの実施について . . . p. 1
  - (1) 学生確保の見通し . . . p. 2
  - (2) 学生確保に向けた具体的な取組 . . . p. 5
- ② 人材需要の動向等、社会の要請
  - (1) 人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(概略) . . . p. 6
  - (2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的証拠 . . . p. 8
  
- 資料 1 高校生が取得を希望する資格（三重県高校生ニーズ調査より）
- 資料 2 卒業後の進学先の希望（三重県高校生ニーズ調査より）
- 資料 3 取得したいと思う資格×卒業後の進路（三重県高校生ニーズ調査より）
- 資料 4 卒業生の進学分野（三重県高校生ニーズ調査より）
- 資料 5 ユマニテク短期大学幼児保育学科（仮称）への興味・関心  
（三重県高校生ニーズ調査より）
- 資料 6 ユマニテク短期大学幼児保育学科（仮称）への進学意向
- 資料 7 三重県における平成 22 年度から平成 27 年度の短大進学者数
- 資料 8 ユマニテク短期大学幼児保育学科（仮称）への興味・関心  
（進路指導部アンケート調査より）
- 資料 9 三重県における事業所の種別調査結果（三重県事業所調査より）
- 資料 10 過去 3 年間の幼稚園・保育士採用結果（三重県事業所調査より）
- 資料 11 事業所における幼稚園教諭・保育士の充足度（三重県事業所調査より）
- 資料 12 事業所における幼稚園教諭・保育士養成課程の設置希望  
（三重県事業所調査より）
- 資料 13 事業所における幼稚園教諭・保育士養成課程の採用需要推計  
（三重県事業所調査より）
- 資料 14 三重県における平成 27 年から平成 39 年の 18 歳人口の推移

## 学生確保の見通し等を記載した書類

### ① 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### ○ ニーズアンケートの実施について

本学は、ユマニテク短期大学幼児保育学科（仮称）入学定員 100 名の認可申請にあたり、三重県内の高校生を対象とした将来の進路についてどのように考えているかニーズ調査を実施した。本調査は、本学が短期大学の設置を計画している三重県下の全高校（県立高校 58 校、私立高校 12 校）の合計 70 校の 2 年生 16,000 人を対象とし、短期大学設置の必要性、特に学生確保の見通しを把握することを目的としている。なお、かかる調査に使用したアンケート用紙並びに結果に関しては、この書類の末尾に付記する。

また上記調査と並行し、調査員が県下 70 校 70 人の進路指導担当教員を訪問し、ユマニテク短期大学幼児保育学科（仮称）への推薦の意向調査について、調査票に基づき聞き取り調査を実施した。

#### ・アンケート実施時期

平成 27 年 5 月 11 日(月)～6 月 5 日(金)

#### ・アンケート調査方法

高校生を対象とした集団自記式調査による定量調査(アンケート調査)を実施した。調査は、現在、設置計画中のユマニテク短期大学 幼児保育学科（仮称）の概要（大学名並びに学科名、取得可能資格、養成を目指す人材像、開設予定地等）を示したうえで、調査票により、性別、居住地域、希望進路先の学校種、進学先の分野、進学決定先について重視する要因、情報源、取得したい資格並びに進学意向について実施した。加えて、高校生の進路選択に際しての考え方や傾向を把握するための自由記述欄を設けた。

また、推薦意向調査については、進路指導担当教員を対象に調査員が高校を直接訪問し、調査票に基づく聞き取り調査を実施した。

#### ・アンケート調査の回収結果

アンケート調査票は、70 校中 65 校 13,991 件より回収することができた(回収率 87.4%)。また、ほぼ同時に実施した進路指導担当教員に対する推薦意向を調査するための聞き取り調査は、70 校中 68 校の回答を得ることができた(回収率 97.1%)。

#### ・アンケート調査を実施した外部機関の概要

丸善株式会社

東京都港区海岸 1-9-18

## (1) 学生確保の見通し

### ①定員充足の見込み

ユマニテク短期大学幼児保育学科(仮称)入学定員100名を充足する見込みについては、県下の高校生や進路指導担当教員への下記のアンケート調査等の結果を踏まえて、定員充足が十分に可能であると判断した。

#### ○三重県下の高校生13,991人にアンケート調査を実施したところ

- ・ユマニテク短期大学幼児保育学科(仮称)への進学希望者は、「進学を希望する114人」、「進学を検討する378人」の回答を得た(資料6参照)。
- ・当調査での資格取得希望者別の短期大学への進学希望者は、幼稚園教諭の資格取得希望者243人(38.6%)、保育士が332人(35.0%)となっており、当該分野への進学希望者は相当数あることから充足可能と考える(資料3参照)。

#### ○県下高校の進路指導部担当教員70人にアンケート調査を実施したところ

- ・平成26年度の短期大学へ進学した生徒1,013人が進学した分野の第1位が「幼稚園教諭」分野で294人であり、第3位が「幼児保育」分野の122人となっていることがわかった。これらは双方で短期大学進学者の4割以上を占めており、潜在的に、短期大学へ進学する生徒の幼児保育分野への進学希望者が相当数にのぼることが予測される(資料4参照)。
- ・ユマニテク短期大学幼児保育学科(仮称)に対する進路指導部担当教員の興味・関心の有無について伺ったところ、「興味・関心がある」が8人、「ある程度興味・関心がある」が25人であり、合計33人が興味・関心を持っていることから、本学への期待の高まりを感じ、学生確保に繋がると思慮される(資料8参照)。

#### ○三重県下で「幼稚園教諭」「保育」分野の学科を置く短期大学は、順調な学生募集を展開しており、平成27年度学生募集実績は、高田短期大学子ども学科では収容定員300名に対して学生数313名(収容定員充足率104.3%)、鈴鹿大学短期大学部生活コミュニケーション学科こども学専攻では収容定員160名に対して学生数162名(収容定員充足率101.3%)となっている。

### ②定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

#### ・アンケート調査結果及び分析

本調査で回答を得た13,991人のなかで、取得したい資格をマルチアンサーで確認したところ、第3位「保育士」が1,010人、第5位「幼稚園教諭」が646人となっており、両資格が取得可能なユマニテク短期大学幼児保育学科(仮称)の設置分野への需要が高いことが窺える。「具体的に取得したいと思う資格」に対する質問項目で、「未回答・無効回答」「特に取得したい資格はない」を除くと、第1位「中学・高校教諭」、第2位「看護師・保健師・助産師」に続き、第3位「保育士」1,010人、第5位「幼稚園教諭」646人となっており、資格としての連関性が非常に高い「保育士」と「幼稚園教諭」を合計すると

1,656人という結果となり、「保育士」「幼稚園教諭」の両資格に対する関心の高さが窺える結果となった(資料1)。

また、「卒業後の進路」と「取得したいと思う資格」という二つの質問の関連性に注目してみると、興味深い結果が得られた。当該アンケートにおいては、「短期大学への進学」への希望者総数は、666人(4.8%)であった(資料2)。他方で、資格取得希望者別の短期大学への進学希望者は、「保育士」332人、「幼稚園教諭」に関しては243人という結果となった。短期大学に期待されている人材養成の中で、とりわけ「幼稚園教諭」「保育士」の重要性が浮かび上がってくる結果であるといえる(資料3)。

また、進路指導部担当教員に対して実施したアンケート調査からは、平成26年度において短期大学へ進学した生徒の進学分野は、第1位が「幼稚園教諭」294人(29.0%)、第2位「家政」が234人、第3位「幼児保育」122人(12.0%)となっており、「幼稚園教諭」「幼児保育」の合計は416人(41.0%)と、実にその4割以上を占めており、短期大学進学希望者の「幼児教育」「保育」分野に進学する割合が著しく高いことが窺われる結果となっている(資料4)。このことから、ユマニテク短期大学幼児保育学科(仮称)の人材養成の方向性・定員充足の見込みには一定の合理性が存在することが窺われる。

他方で、高校生へのアンケート結果からユマニテク短期大学幼児保育学科(仮称)への興味・関心では「興味・関心がある」が524人(3.7%)、「ある程度興味・関心がある」が1,420人(10.1%)と何らかの興味・関心がある生徒が1,944人(13.8%)となった(資料5)。

さらに、より具体的にユマニテク短期大学幼児保育学科(仮称)への進学意向では、「進学を希望する」が114人(0.8%)、「進学を検討する」が378人(2.7%)で、何らかの進学の意向を持つこれら結果の合計が492人(3.5%)となった(資料6)。この数値は、ユマニテク短期大学幼児保育学科(仮称)の入学定員100人に対して、「進学を希望する」で1.1倍となり、「進学を検討する」層からも一定数の入学者がいることを想定すると、本学が計画するユマニテク短期大学幼児保育学科(仮称)の定員設定100名は妥当であると考えられる。

#### ・重層的な調査の分析

三重県の高校2年生の87.4%が回答した本調査で「短期大学への進学」を選択したのは、666人である。それに対して、平成22年度～平成27年度では、いずれも1,000人以上が実際に短期大学へ進学している(資料7)ことから、高校2年生の時点では「短期大学への進学」を希望していない生徒でも、最終的に短期大学へ進学する生徒が一定数いることがわかる。従って、本調査が高校2年生を対象としていることを考慮すると、実際の進学需要は本調査より大きくなるものと考えられる。加えて、三重県における平成27年から平成39年の18歳人口の推移(資料14)が88%であることを考慮しても、1,021人(平成26年度学校基本調査)×88%=898人規模の短期大学志願者がいることが予測され、長期的に学生確保ができると判断する。

また、進路指導部担当教員に対して実施したアンケート調査からは、ユマニテク短期大学 幼児保育学科(仮称)に対して、「興味・関心がある」が 8 人(11.8%)、「ある程度の興味・関心がある」が 25 人(36.8%)で、これらの合計が 33 人(46.8%)と半数近くの進路指導部担当教員が何らかの興味・関心を持っていることから、本学に対する期待の高さが窺われる結果となった。加えて、「わからない」との回答が 11 人(16.2%)にもものぼっており、新設校特有の知名度・認知度不足がうかがわれる結果ともなっているが、このことは今後の広報活動等の展開により、ユマニテク短期大学幼児保育学科(仮称)の特色や学びの内容を伝えることによって、認識が大きくより良い方向へ変革・改善される余地が存在しているものとして解することができるとも考えられる(資料 8)。

#### ・地理的な関連と競合校の志願状況

県内で競合校となることが予想される短期大学は、高田短期大学子ども学科(入学定員 150 名)と鈴鹿大学短期大学部生活コミュニケーション学科こども学専攻(入学定員 90 名)である。本学が計画するユマニテク短期大学幼児保育学科(仮称)は、経済・流通構造的には名古屋圏に属する三重県北勢地区の四日市市であるのに対して、前述した 2 校は、地理的に異なった三重県中勢地区にある。しかし、本学が主たる募集対象として考えている北勢地区には養成校が存在しないことから新たな需要喚起にも繋がり、前述 2 校と学生募集上での競合は比較的小さいと考える。

また、両校の募集定員は合計 240 名であり、進路指導部担当教員へのアンケート調査における平成 26 年度「幼稚園教諭」「保育」分野の短期大学進学数合計 416 人と比較すると、多くの「幼稚園教諭」「保育」分野の短期大学志望者が、県外の短期大学に入学しているという実態が浮かび上がる。さらに、北勢地区は経済・流通構造的に名古屋圏に属することから、この地区から愛知県への流出が多いことが推測されることから、この地区における「幼児教育」「保育」分野の短期大学への一定の需要があると考えられる。

さらに、両校とも当該(「幼稚園教諭」「保育」分野)の学科においては、順調な学生募集を展開しており、平成 27 年度学生募集実績は、高田短期大学子ども学科では収容定員 300 名に対して学生数 313 名(収容定員充足率 104.3%)、鈴鹿大学短期大学部生活コミュニケーション学科こども学専攻では収容定員 160 名に対して学生数 162 名(収容定員充足率 101.3%)となっており(学生数等は、各短期大学がホームページ上に公表した情報による)、安定した学生需要が存在していることが窺われる。

### ③学生納付金の設定の考え方

#### ・学生納付金の設定の考え方

本学の学費は、110 万円に設定した。これは本調査からも進学先決定時における重視項目として学費(入学金・授業料等)が全体の 7.4%と高いことから(入口ニーズ調査報告書 p13)、計画しているユマニテク短期大学幼児保育学科(仮称)においては経営的側面も併せ十分考慮した結果である。具体的に三重県及び名古屋圏の既設の同分野大学等のそれと比較すると、三重県とほぼ同水準、名古屋圏の短期大学よりは低い額で設定した。これ

は、学生の金銭的負担を軽減することを重要と考えたことによる。このことから、本学への進学を希望する受験生にとって、本学は学費設定の面でも好条件であると判断されると認識している。

	短大名	学科名	入学定員	収容定員	初年度納入金	次年度納入金
三重県	ユマニテク短期大学(仮称)	幼児保育学科(仮称)	100	200	1,100 千円	850 千円
	高田短期大学	子ども学科	150	300	1,120 千円	840 千円
	鈴鹿大学短期大学部	生活コミュニケーション学科	90	180	1,050 千円	800 千円
名古屋圏	名古屋柳城短期大学	保育学科	200	400	1,300 千円	1,050 千円
	名古屋女子大学短期大学部	保育科	160	320	1,392 千円	1,142 千円
	修文大学短期大学部	幼児教育学科	120	240	1,300 千円	1,130 千円

(平成 27 年度入学生対象)

## (2) 学生確保に向けた具体的な取組

ユマニテク短期大学幼児保育学科（仮称）の学生募集に関しては、認可が下り次第、可及的速やかに着手する予定である。それまでは、監督官庁である文部科学省への確認を行ったうえで、「設置認可申請中」である旨を大きく明記し、学生にいかなる不利益も生じないように考慮したうえで、許容される最大限の広報・周知活動を実施したいと考えている。新設校であるが故に、知名度をあげその存在をアピールするために、交通機関への広告や新聞広告等を実施するとともに、広く社会に発信できるメディア・媒体を積極的に利用していきたいと考えている。学生が進路決定の際に、その情報源・判断材料として近年重視する傾向がみられる、ホームページの充実にも尽力したい。

設置認可後の具体的な活動としては、本学の着任予定教員や、既設の専門学校の学生募集活動で培われたノウハウ及び高等学校とのリレーションを活かした広報専属職員による各高等学校の進路指導部への訪問、高校教員向けの入試説明会等に取り組みたいと考えている。特に学校訪問を重視し、新設校である知名度不足を補いたい。加えて、養成する人材像、教育内容、資格取得可能資格等、充実した学生生活を期すための就学支援の体制などについて、詳細かつ懇切な説明に邁進したいと考えている。

またこれらに加えて、進学相談会の開催、竣工した校舎でのオープンキャンパス、着任予定教員による模擬授業の開催等も予定している。

加えて、着任予定教員による各高等学校への出前講義等の実施にも積極的に取り組ん

でいきたいと考えている。

## ② 人材需要の動向等、社会の要請

### (1) 人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的（概要）

今回、新たに設置を計画している短期大学は、「豊かな人間性と確かな技術」という教育理念の実現に向け、地域社会からの人材養成のニーズに応え、子育て支援や地域社会に対して開かれた拠点となる計画である。幼稚園教諭・保育士双方の資格を併せて取得することにより、現在、社会的かつ地域的に必要とされている保育力だけでなく幼児期における教育力を併せ持った人材の教育を図っていききたい。実際に、幼稚園教諭・保育士の教育を主眼とした短期大学をこの地に設置することに対する地域社会からの要望は極めて強いものがある。

そのためにも、本学の幼児保育学科（仮称）では、「人間性豊かで優れたコミュニケーション能力を有し、教育力と保育力を併せ持った専門職業人であり、地域に根ざし・地域固有のニーズに応じた人材の養成」を目的としている。変化する周囲の環境にも柔軟に対応可能な「実践的指導力」、「課題探求能力」や「コミュニケーション能力」、そして高等教育を通して形成される知識や技能を身に付けていることが必要である。本学では、高等教育機関としての短期大学にふさわしい教養教育・専門教育の体系化、専任教員によるゼミナールにおける人間形成教育の実施等を通して、前述した人材養成に取り組んでいく所存である。そのために、専門教育科目の一部とゼミナールにおいては、学生の主体に委ねた課題探求やグループ学習、学生間の相互評価等の教育法も採り入れる。加えて本学は、学生が自主的・自立的に、かつ日常的に学修を行なうことができる仕組みを作り、学生が積極的に講義等に参加する環境づくりに努めたい。具体的には、学生が主体的に学びを行うため、学内の無線LANや学習スペース、さらにオフィスアワーの充実等、学修環境を整備し、学生の「課題探求能力」の涵養に積極的に取り組む予定である。

また、地域貢献の一環として、複雑化し多様化している家族形態とその教育的ニーズへの対応、子育て支援や地域連携等、地域独自の課題を解決するための活動を展開したい。特に「地域に根ざした」教育活動の一環として、公開講座、履修証明プログラム、各種ボランティア活動さらには、地域の行政機関と緊密な連絡をとりつつ、市民講座への専任教員の講師派遣や、官民連携による子育て支援講座を実施する予定である。本学が子育て支援の拠点となるとともに、中央教育審議会答申の「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」において言及されている「家庭や地域社会の教育力の再生・向上」の拠点たり得ることを目指したい。

なお、本学科の指針として、教育理念である「豊かな人間性と確かな技術」を土台とし、中央教育審議会答申「今後の教員教育・免許制度の在り方について」（平成18年7月）に示された教員として求められる「使命感や責任感」、「社会性や対人関係能力」、「幼児理解や学級経営力」、「教科・保育内容等の実践指導力」を兼ね備えた人材養成を行うことを掲げている。他方で、学習指導要領（平成20年度改訂）の基本事項に示された「生きる

力」の基礎となる「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等の調和、幼稚園教育要領（平成 20 年度改訂）にて示された「幼小の連携の推進、幼稚園と家庭との連携を配慮した教育の実践、教育・保育内容の質的向上の推進等に資する人材の教育」を目標とした。なお、具体的な養成する人材像として「人間性豊かで幼児期の教育力と保育力を併せ持った専門職業人材」を以下 3 つの能力に分解される。

### 1. 幼児期における教育力と専門的保育力を持った実践的指導力を有する専門職

2 年間の教育課程において、「教育原理」「保育原理」「教育心理学」「保育の心理学」「保育内容総論」「各指導法」「教育方法と技術」等の科目を全員が履修する。これらの科目は、幼稚園教諭・保育士として必要とされる基礎的知識及び技能の修得を「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等の調和的な育成に繋がるものである。それとともに、幼児教育に携わる専門職としての「使命感や責任感」も着実に身に付けさせる。その知識や技能を実習や地域活動を通じて実践することに加えて、「教職実践演習」におけるグループ学習等においては、学生による相互評価法を導入することで学生が子どもの目線で他者の評価を行い、子どもの気持ちに寄り添うトレーニングを実践する。これらの学習活動を実践することで学生が能動的に身に付けるものである。このように「課題探求力」を身に付け、主体的に自身の能力を発揮できる姿勢を涵養する。さらに専門的知識や技能を体系的に理解することで、日々変化する状況に対応し得る「幼児理解や学級経営力」、「教科・保育内容等の実践指導力」を教育する。

### 2. コミュニケーション能力を有する専門職

子ども一人ひとりに応じた教育や保育を行うためには、幅広い分野を学際的に網羅した教養科目の履修による豊かな人間性の涵養を図ることが必要である。他者理解、助け合いの精神である共助と他者とともに栄えようとする共栄の精神と多様性に対する寛容の精神を育てなければならない。教養科目、ゼミナール等での人間形成教育を通して、他者や異文化、異なる価値観に対する寛容の精神を育む。さらに、対人関係能力、コミュニケーション能力の育成を図ることで、総合的な「社会性や対人関係能力」「人間力」を身に付けた専門職の人材を教育する。

### 3. 地域のニーズを理解し、地域に根ざす能力を有する専門職

教育・保育を行うにあたり、少子化や子育て支援など地域固有の課題がある。そのために地域への理解は必要不可欠となる。「社会福祉」「児童家庭福祉」「社会的養護」「家庭支援論」「地域ボランティア論」「子育て支援演習」等の科目を履修するとともに、2 年間の教育課程内外の地域活動を通じて、地域固有のニーズや地域社会との連携のあり方を理解する。地域に貢献できる人材、その時代のニーズに即応した人材を教育する。

幼稚園や保育所、認定こども園で活躍する専門職には、幼児期における教育力と子育て支援を含む保育力を身に付けていることが期待されていることは先述したとおりである。他方で、家族そのものの崩壊や児童虐待の増加（平成 19 年度社会的養護施設に関する実態調査、福祉行政報告例）により、結果として行き先がなくなった子どもを受け入れる施設の需要が高まっている。教育施設としての側面も併せ持つ児童養護施設とそこに勤務



する保育士が果たすべき社会的役割も増大して来た。ここでも、幼児期の教育力と保育力を併せ持つ専門職の養成が必要とされている。かかる我が国の幼児教育の現状を鑑みると、新たに国が推奨している「認定こども園」の増加も無視できない。特に平成26年から平成27年にかけて、その設置数は倍増の勢いを示しており、ここでも幼児期の教育力と子育て支援を含む保育力を併せ持つ専門職が必要とされている。その人的需要の増加は無視できない状況にあるといえる。

加えて、三重県の地方自治体の多くでは、管轄下の公立保育園への就業にあたっては、保育士資格だけではなく、幼稚園教諭資格の取得を求められている。また、幼稚園教諭・保育士の両免許を就業にあたり必要とする「認定こども園」へと形態移行も進んでいる。従って、養成が求められている幼児教育に携わる専門職は、幼稚園教諭・保育士の双方免許を取得し、幼児教育・保育の専門教育を受けた幼児期における教育力と子育て支援を含む保育力を身に付けた人材であると、結論付けることができる。本学では、幼稚園教諭・保育士双方の資格を併せて取得する人材の養成を目指しており、かかる人材養成の方向性は人材養成に対する質の面での社会的要請だけでなく、数的な面での社会的人材要養成の要求に添えていくことに直結するものであると認識している。

## (2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的根拠

本学が計画するユマニテク短期大学幼児保育学科(仮称)の設置認可申請にあたって、人材需要の客観的状況を把握するために、三重県下の249事業所(保育所・幼稚園・児童養護施設等)に対して事業所アンケートを第三者外部機関として丸善株式会社(東京都港区海岸1-9-18)に依頼し行った。回答があった内訳は、幼稚園39園(15.7%)、保育所・保育園144園(57.8%)、認定こども園5園(2.0%)、乳児院・児童養護施設11施設(4.4%)、知的障害者施設等16施設(6.4%)、上記以外の社会福祉施設等3施設(1.2%)、官公庁25(10.0%)、未回答・無効回答6(2.4%)であった(資料9)。

過去3年間の幼稚園教諭・保育士の採用数に関しては、平成25年度190事業所621人、平成26年度199事業所587人、平成27年度191事業所602人であり、いずれの年度も採用人数は600人前後で推移しており、一定の社会的ニーズが存在することが推察される(資料10)。

さらに、各事業所に対して実施した採用意識調査でも、幼稚園教諭・保育士が「不足している」(29.3%)「やや不足している」(38.6%)で、この合計が67.9%となり、認識の程度の差はあるものの、7割近くの事業所が、人材が不足していると回答している。これに対して、「充足している」と回答した事業所は61事業所(24.5%)であった(資料11)。

同様に、幼稚園教諭・保育士の両免許状の取得が可能なユマニテク短期大学幼児保育学科(仮称)の設置の必要性に対する結果においては、「必要性を感じる」が148事業所(59.4%)で「ある程度の必要性を感じる」が63事業所(25.3%)で、これらの合計が211事業所(84.7%)と、各事業所からの高い期待をかけられていることが窺える結果となった(資料12)。

また、厚生労働省職業安定局「保育士資格を有しながら保育士としての就職を希望しない求職者に対する意識調査(平成25年)」に示されているように、保育士として就業した

者の半数以上が 5 年以内に離職しているという現状を鑑みると、単に数的な不足だけでなく、本学が教育課程を通して意図しているような、幼稚園教諭・保育士としての「使命感や責任感」の涵養に重きを置いた人材養成の方向性は、地域的・社会的ニーズに合致したものであるといえよう。国や地方自治体において、潜在保育士の再就業支援等が積極的・活発に行われているという現実も、かかる認識の根拠となるものであり、それだけに安易に離職しない幼稚園教諭・保育士としての「使命感や責任感」を十分に身に付けた人材養成の必要は高まっているといえる。

ユマニテック短期大学幼児保育学科（仮称）の卒業生の採用に関する意識調査に関しても、「保育士を採用したい」が 70 事業所（28.1%）、「保育士の採用を検討したい」が 61 事業所（24.5%）で、この合計が（52.6%）となっている。また、「幼稚園教諭を採用したい」は、11 事業所（4.4%）で、「幼稚園教諭の採用を検討したい」は 14 事業所（5.6%）でこれらの合計は 25 事業所（10.0%）となる。上記の全てを合計すると 156 事業所（62.6%）が、設置を構想している「ユマニテック短期大学」の卒業生に対して何らかの採用意向を持っていることが窺える結果となった。この採用意向調査からは、本学が計画するユマニテック短期大学幼児保育学科（仮称）の卒業生に対し「保育士を採用したい」と回答した 70 事業所の採用数が 142 名であった。また、「保育士の採用を検討したい」と回答したのは、37 事業所で人数は 63 名であった。「幼稚園教諭を採用したい」と回答した事業所は、11 事業所うち 8 事業所で 17 人の採用意向が示され、「幼稚園教諭の採用を検討したい」と回答したのは、14 事業所のうち 9 事業所が 17 人の合計 239 人の採用希望者となっている（資料 13）。

この結果からは、保育・幼児教育に関わる人材需要の実態が多様な角度から明らかにされたと認識する。採用希望人数も採用の意向を示しながらも人数を明示しなかったケースを除いても、入学定員（100 人）を上回っており、ユマニテック短期大学幼児保育学科（仮称）の卒業生に対する高い採用需要があるといえる。従って、安定した人材需要が存在することと、卒業生の進路確保がなされ得ることが推測され、当該申請において学生の「出口」を考慮した場合にも十分な合理性があると考える。

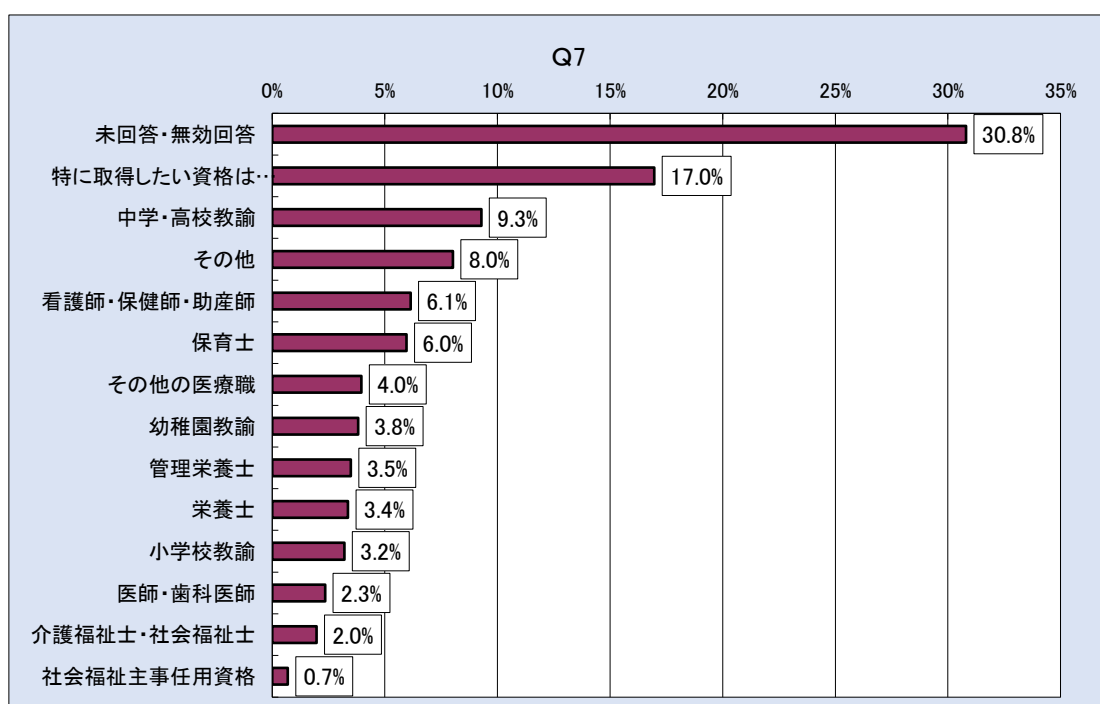
## 資料 1

### 高校生が取得を希望する資格（三重県高校生アンケート調査より）

【質問 7】 次のうちあなたが取得したい資格がありますか？

取得したい資格がある場合、次の中から2つまで選び○をつけて下さい。

	回答数（人）	構成比（％）
全体	16,934	100.0%
医師・歯科医師	397	2.3%
看護師・保健師・助産師	1,040	6.1%
その他の医療職	670	4.0%
介護福祉士・社会福祉士	333	2.0%
中学・高校教諭	1,572	9.3%
小学校教諭	542	3.2%
保育士	1,010	6.0%
幼稚園教諭	646	3.8%
社会福祉主事任用資格	117	0.7%
管理栄養士	591	3.5%
栄養士	570	3.4%
その他	1,358	8.0%
特に取得したい資格はない	2,872	17.0%
未回答・無効回答	5,216	30.8%

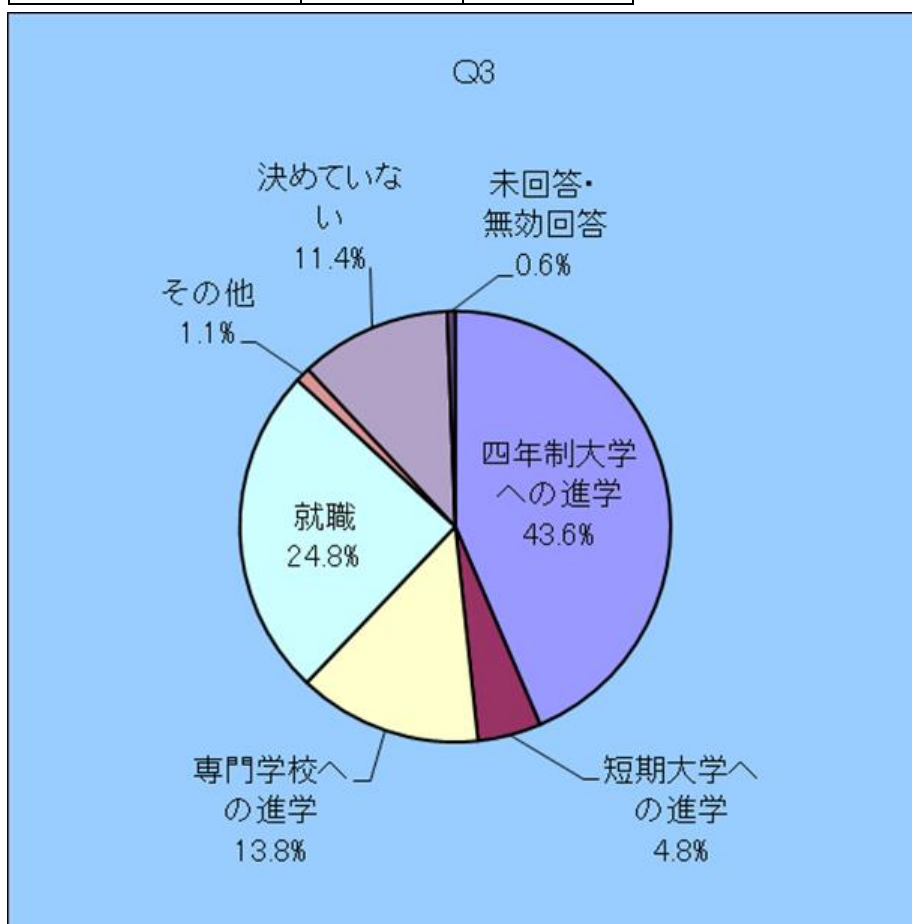


## 資料 2

### 卒業後の進学先の希望（三重県高校生アンケート調査より）

Q3) あなたは、高校卒業後の進路としてどのようなものを考えていますか？

	回答数(人)	構成比(%)
全体	13,991	100.0%
四年制大学への進学	6,094	43.6%
短期大学への進学	666	4.8%
専門学校への進学	1,929	13.8%
就職	3,471	24.8%
その他	156	1.1%
決めていない	1,592	11.4%
未回答・無効回答	83	0.6%



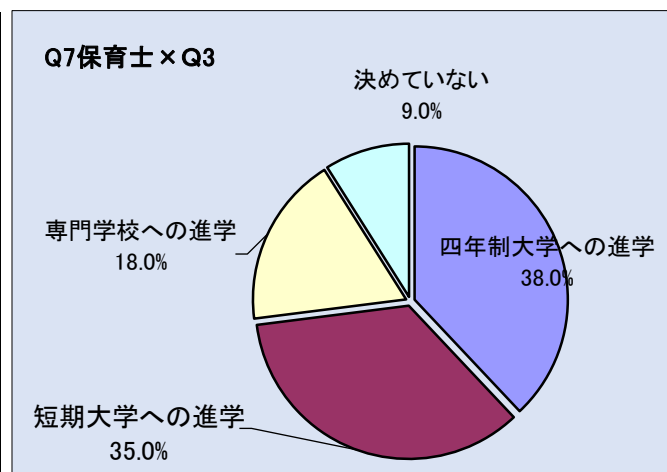
### 資料 3

#### 取得したいと思う資格×卒業後の進路（三重県高校生アンケート調査より）

【質問 3】 あなたは、高校卒業後の進路としてどのようなものを考えていますか？次の中から、1つ選び○をつけてください。

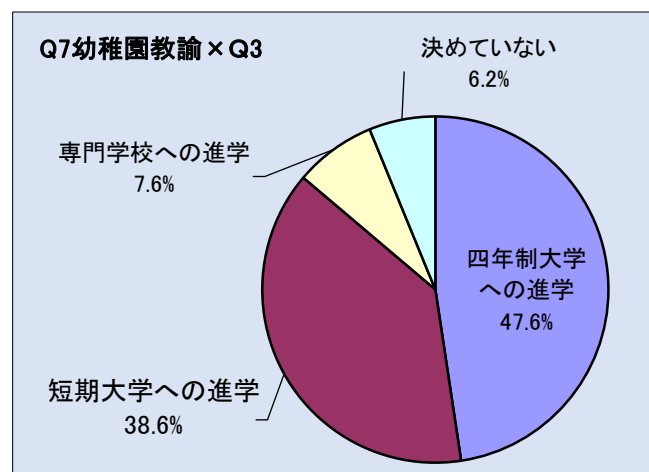
##### 保育士資格取得希望者の進路希望

	回答数 (人)	構成比 (%)
全体	948	100.0%
四年制大学への進学	360	38.0%
短期大学への進学	332	35.0%
専門学校への進学	171	18.0%
決めていない	85	9.0%



##### 幼稚園教諭資格取得希望者の進路希望

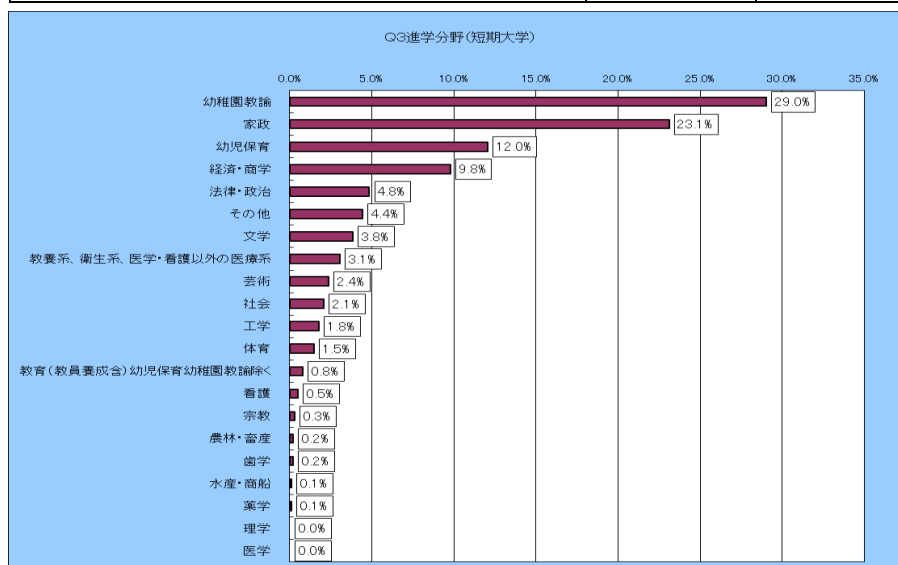
	回答数 (人)	構成比 (%)
全体	630	100.0%
四年制大学への進学	300	47.6%
短期大学への進学	243	38.6%
専門学校への進学	48	7.6%
決めていない	39	6.2%



## 資料 4

### 卒業生の進学分野（三重県高校進路指導部担当教員アンケート調査より）

短期大学	回答数(人)	構成比(%)
総計	1,013	100.0%
文学	39	3.8%
法律・政治	49	4.8%
経済・商学	99	9.8%
社会	21	2.1%
教育(教員養成)幼児保育幼稚園教諭を除く	8	0.8%
幼稚園教諭	294	29.0%
幼児保育	122	12.0%
理学	0	0.0%
工学	18	1.8%
農林・畜産	2	0.2%
水産・商船	1	0.1%
医学	0	0.0%
歯学	2	0.2%
看護	5	0.5%
薬学	1	0.1%
体育	15	1.5%
芸術	24	2.4%
家政	234	23.1%
宗教	3	0.3%
教養系、衛生系、医学・看護以外の医療系	31	3.1%
その他	45	4.4%



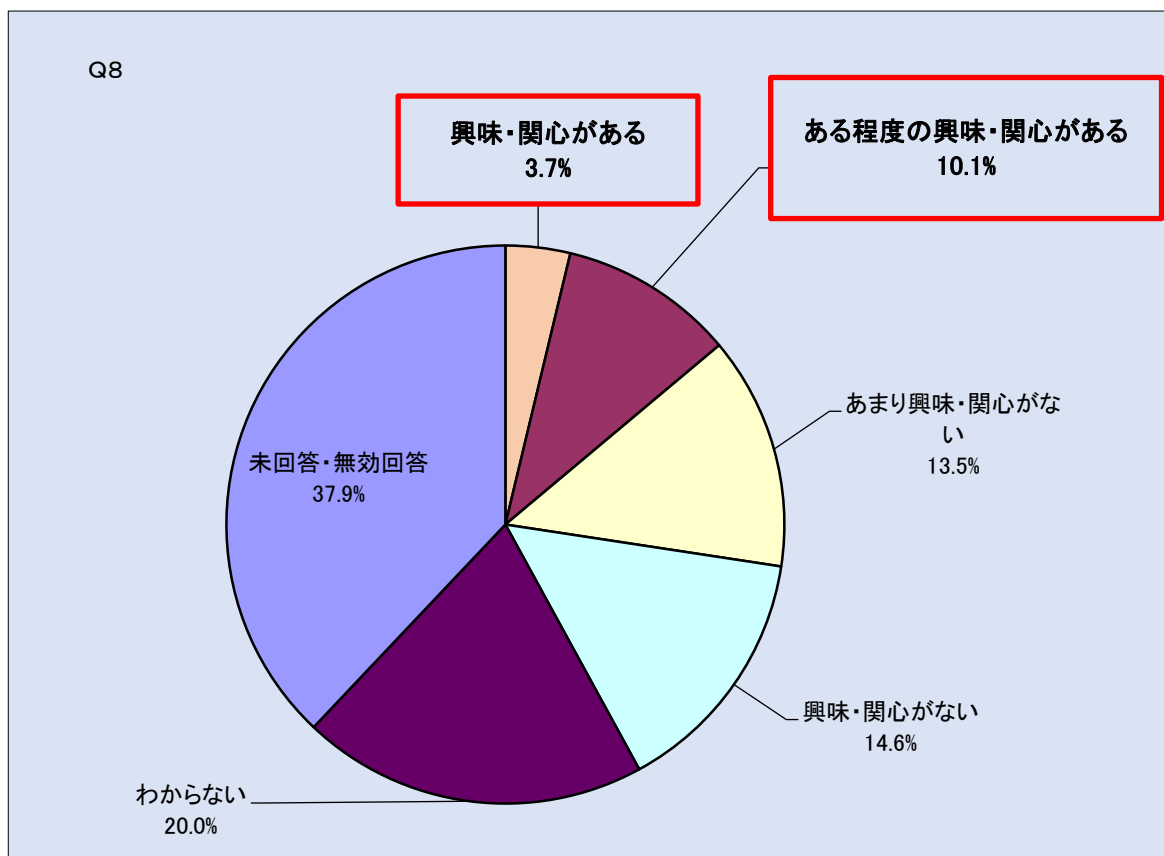
## 資料5

### ユマニテク短期大学幼児保育学科（仮称）への興味・関心

（三重県高校生アンケート調査より）

【質問 8】 この資料を読んで「ユマニテク短期大学幼児保育学科(仮称)」に興味・関心を持ちましたか？次の中から、1つ選び○をつけてください。

	回答数（人）	構成比（％）
全体	13,991	100.0%
興味・関心がある	524	3.7%
ある程度の興味・関心がある	1,420	10.1%
あまり興味・関心がない	1,890	13.5%
興味・関心がない	2,047	14.6%
わからない	2,802	20.0%
未回答・無効回答	5,308	37.9%



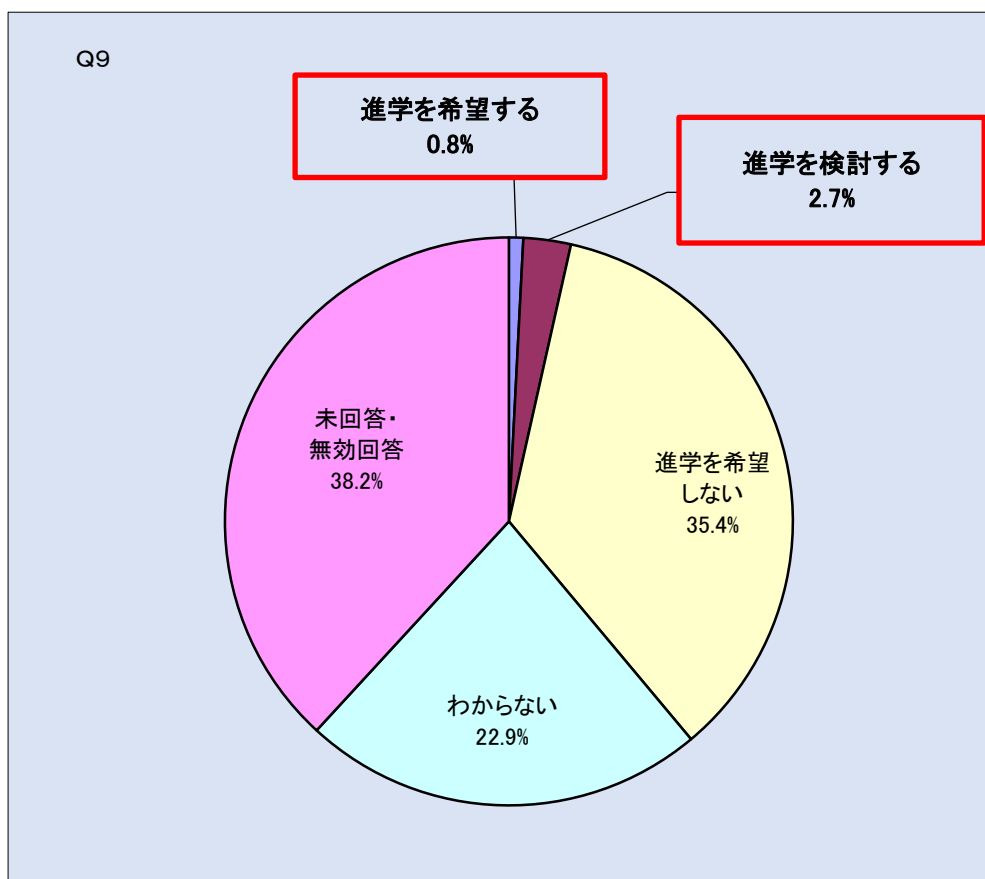
## 資料6

### ユマニテク短期大学幼児保育学科（仮称）への進学意向

（三重県高校生アンケート調査より）

【質問 9】 この資料を読んで、あなたは「ユマニテク短期大学幼児保育学科（仮称）」に進学を希望しますか？次の中から、1つ選び○をつけてください。

	回答数（人）	構成比（%）
全体	13,991	100.0%
進学を希望する	114	0.8%
進学を検討する	378	2.7%
進学を希望しない	4,952	35.4%
わからない	3,208	22.9%
未回答・無効回答	5,339	38.2%





## 資料 7

## 三重県の高校の短期大学入学者数推移

## 三重県の高校の短期大学入学者数推移

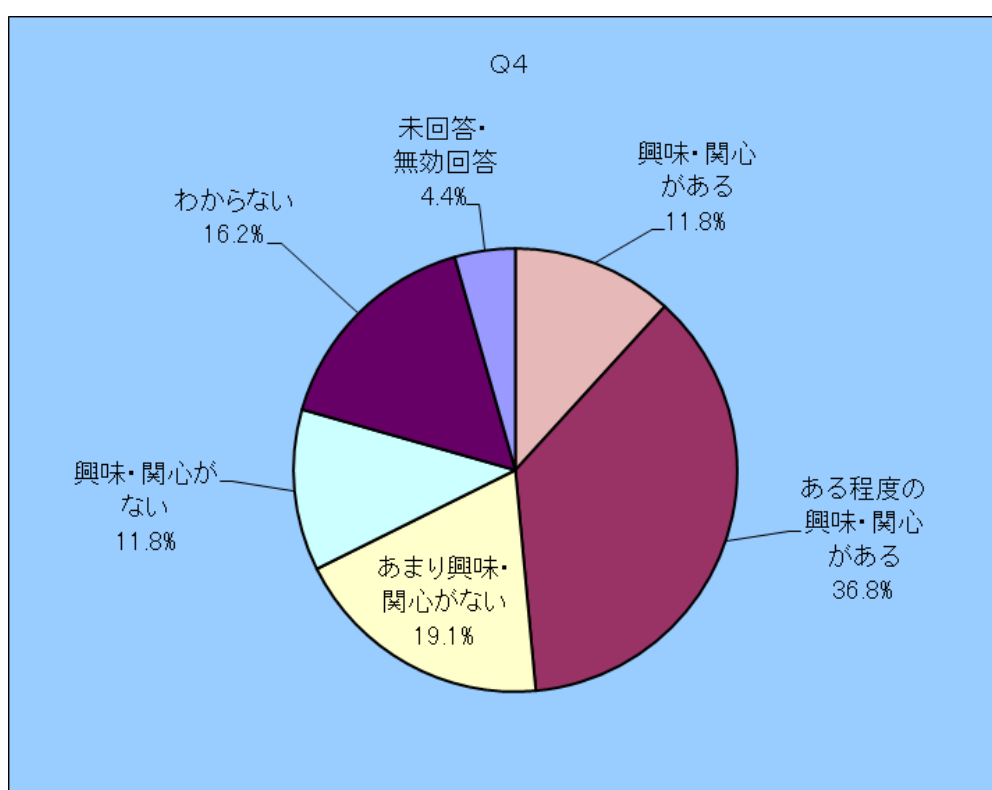
短大所在地 \ 年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
全国計	1,163	1,087	1,030	1,075	1,021	1,064
岐 阜	42	47	38	50	43	49
愛 知	333	280	294	276	253	299
三 重	608	577	531	566	565	548

## 資料 8

ユマニテク短期大学幼児保育学科（仮称）への興味・関心

（三重県高校進路指導部担当教員アンケート調査より）

	回答数(人)	構成比(%)
全体	68	100.0%
興味・関心がある	8	11.8%
ある程度の興味・関心がある	25	36.8%
あまり興味・関心がない	13	19.1%
興味・関心がない	8	11.8%
わからない	11	16.2%
未回答・無効回答	3	4.4%

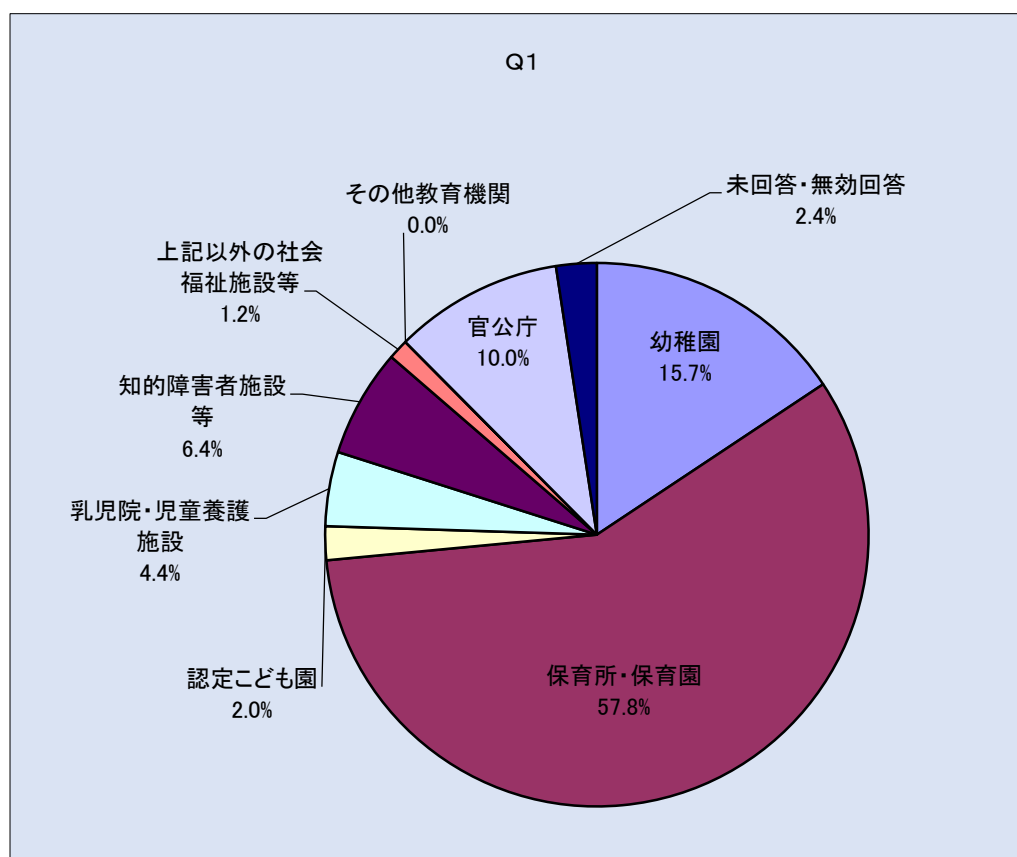


## 資料 9

三重県における事業所の種別調査結果（三重県事業所アンケート調査より）

【質問 1】 貴事業所の種別は、次のどれですか？1つ選び○をつけてください。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	249	100.0%
幼稚園	39	15.7%
保育所・保育園	144	57.8%
認定こども園	5	2.0%
乳児院・児童養護施設	11	4.4%
知的障害者施設等	16	6.4%
上記以外の社会福祉施設等	3	1.2%
その他教育機関	0	0.0%
官公庁	25	10.0%
未回答・無効回答	6	2.4%



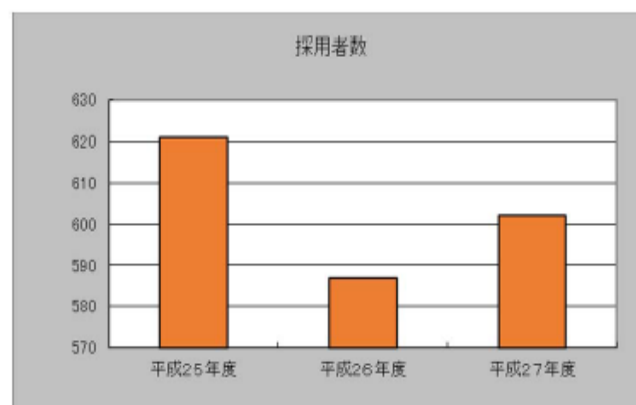
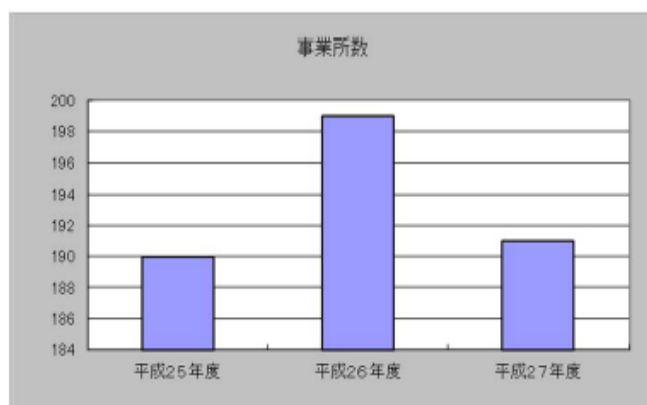
## 資料 10

過去3年間の幼稚園教諭・保育士採用結果（三重県事業所アンケート調査より）

Q4) 貴事業所ではQ3)で指定された職種のうち1.保育士、2.幼稚園教諭を過去3年間（平成25年度～平成27年度）で何人採用されましたか？

\* 詳細がご不明な場合は概数をご記入下さい

平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	事業者数(事業所)	採用人数(人)		事業者数(事業所)	採用人数(人)
合計	190	621	合計	199	587
			合計	191	602

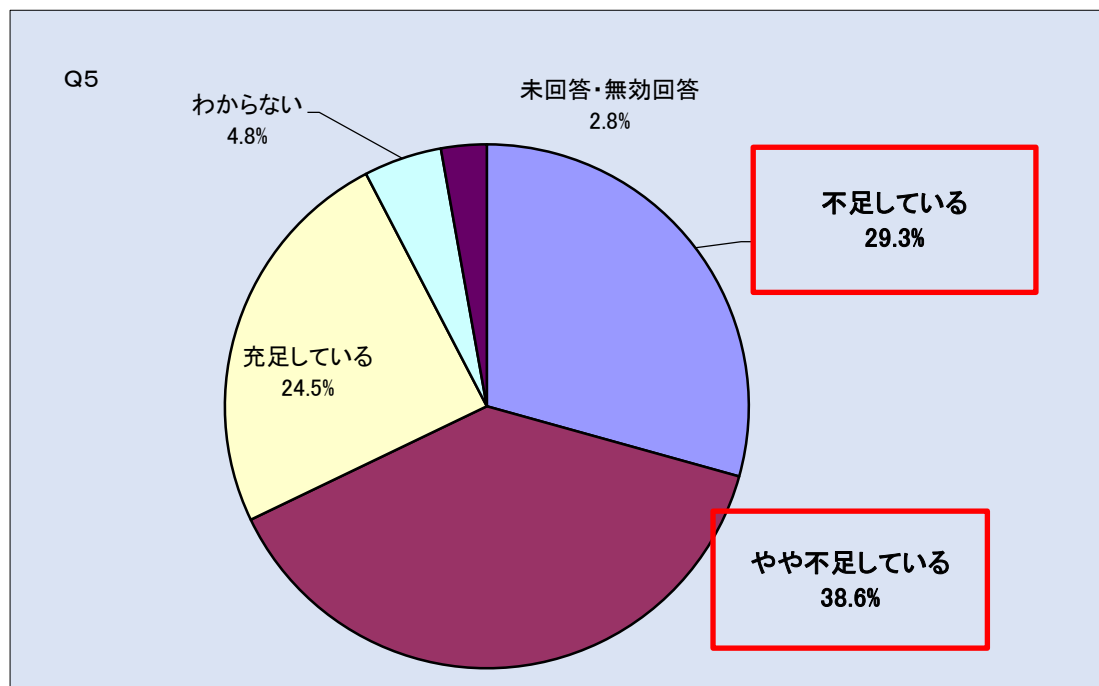


## 資料 1 1

事業所における幼稚園教諭・保育士の充足度（三重県事業所アンケート調査より）

【質問 5】 貴事業所では、上記で指定された職種の採用状況についてどのようにお考えですか？次の中から1つ選び○をつけてください。

	回答数 (事業所)	構成比 (%)
全体	249	100.0%
不足している	73	29.3%
やや不足している	96	38.6%
充足している	61	24.5%
わからない	12	4.8%
未回答・無効回答	7	2.8%



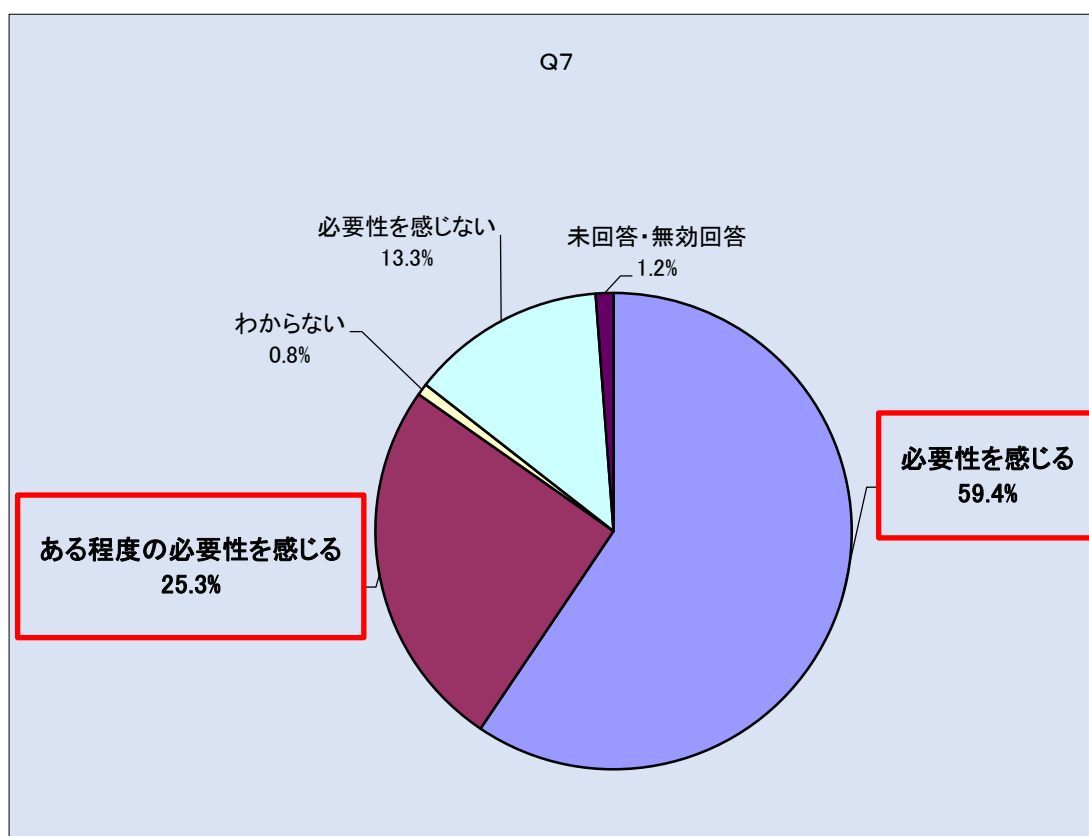
## 資料 1 2

### 事業所における幼稚園教諭・保育士養成課程の設置希望

(三重県事業所アンケート調査より)

【質問 7】 貴事業所では「ユマニテク短期大学幼児保育学科(仮称)」の設置について、どのようにお考えですか？次の中から1つ選び○をつけてください。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	249	100.0%
必要性を感じる	148	59.4%
ある程度の必要性を感じる	63	25.3%
わからない	2	0.8%
必要性を感じない	33	13.3%
未回答・無効回答	3	1.2%



### 資料 1 3

事業所における「ユマニテク短期大学幼児保育科(仮称)」の幼稚園教諭・保育士養成課程の卒業生の採用需要推計

(三重県事業所アンケート調査より)

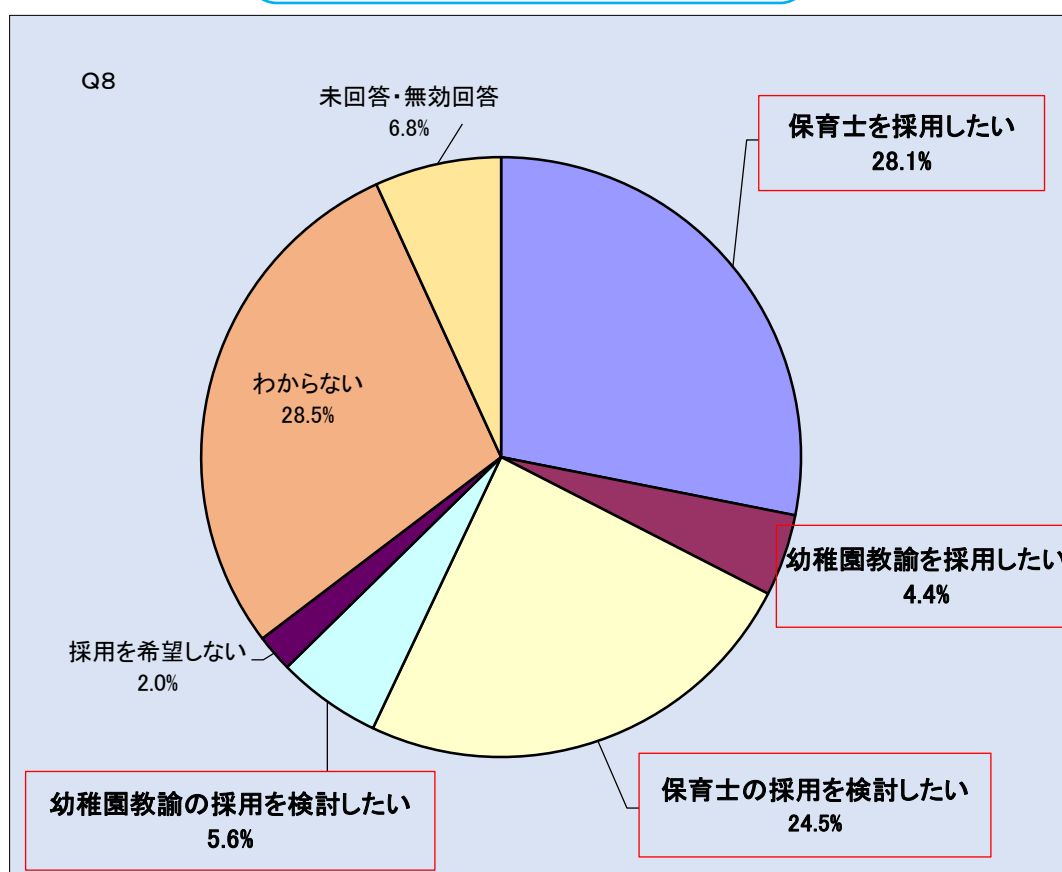
【質問 8】貴事業所では、「ユマニテク短期大学幼児保育科(仮称)」の卒業後取得できる資格は、保育士、幼稚園教諭 2 種ですが、貴事業所では卒業生の採用についてどのようにお考えですか？次の中から 1 つ選び○を付けて下さい。

	回答数 (事業所)	構成比 (%)	採用希望人数
全体	249	100.0%	
保育士を採用したい	70	28.1%	55 事業所 142 人
幼稚園教諭を採用したい	11	4.4%	37 事業所 63 人
保育士の採用を検討したい	61	24.5%	8 事業所 17 人
幼稚園教諭の採用を検討したい	14	5.6%	9 事業所 17 人
採用を希望しない	5	2.0%	
わからない	71	28.5%	
未回答・無効回答	17	6.8%	



採用意向のある 156 事業所のうち 109 事業所から採用希望人数の記載があった。  
47 事業所は採用希望人数が未回答であった。

109 事業所  
採用希望合計数 239 人



## 資料 1 4

## 18歳人口の推移

該当年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年	平成 32年	平成 33年	平成 34年	平成 35年	平成 36年	平成 37年	平成 38年	平成 39年	
基準データ	24年3月中学卒	25年3月中学卒	26年3月中学卒	27年3月中学卒	27年度中3	27年度中2	27年度中1	27年度小6	27年度小5	27年度小4	27年度小3	27年度小2	27年度小1	趨勢
北海道	48,820	47,972	47,575	45,902	45,429	45,695	44,738	44,345	42,656	41,136	41,987	41,235	41,123	84%
青森	13,819	13,342	13,259	12,677	12,469	12,380	11,870	11,347	10,893	10,182	10,356	10,020	9,921	72%
岩手	12,718	12,386	12,551	12,095	12,084	11,924	11,396	11,264	10,776	10,205	10,477	10,248	10,131	80%
宮城	21,805	21,603	21,829	21,571	21,556	21,392	20,834	20,851	19,993	19,229	19,873	20,076	19,784	91%
秋田	9,791	9,604	9,309	9,121	8,695	8,597	8,194	8,030	7,879	7,580	7,679	7,417	7,297	75%
山形	11,412	10,996	10,862	10,687	10,621	10,614	10,294	9,865	9,720	9,220	9,415	9,304	9,050	79%
福島	20,109	19,409	19,776	18,915	18,797	18,463	17,598	17,254	16,541	15,856	15,815	15,403	15,083	75%
茨城	28,876	28,742	28,354	28,343	27,910	27,655	27,034	26,830	26,171	24,916	25,647	25,276	25,002	87%
栃木	18,971	18,898	18,817	18,508	18,752	18,744	18,305	18,224	17,681	17,386	17,374	17,402	17,038	90%
群馬	19,936	19,402	19,397	19,258	19,063	19,148	18,533	18,638	17,999	17,272	17,482	17,261	17,175	86%
埼玉	66,382	65,927	65,751	65,557	65,420	65,510	64,226	64,267	63,017	61,368	63,033	62,816	62,077	94%
千葉	55,571	54,866	55,633	55,310	55,370	55,017	54,643	54,874	54,244	52,004	53,384	53,287	52,963	95%
東京	104,275	103,471	104,882	104,192	104,631	103,753	102,490	98,924	96,912	94,869	98,899	100,926	101,628	97%
神奈川	77,412	78,396	79,673	78,886	79,247	78,596	77,501	79,569	77,660	75,530	77,574	78,348	77,783	100%
新潟	22,267	21,711	21,629	21,074	20,632	20,514	19,212	19,864	19,341	18,588	19,110	18,698	18,533	83%
富山	10,305	10,093	10,063	10,189	10,103	10,110	9,654	9,570	9,324	9,011	8,927	8,752	8,611	84%
石川	11,322	11,058	11,398	11,121	11,205	11,088	10,568	10,779	10,242	9,938	10,208	10,395	10,077	89%
福井	8,273	7,986	8,160	7,907	7,737	7,808	7,591	7,331	7,268	7,113	7,237	7,211	7,138	86%
山梨	8,809	8,739	8,321	8,396	8,086	8,019	7,768	7,636	7,364	7,185	7,138	7,016	6,911	78%
長野	21,285	21,173	21,233	20,914	20,509	20,657	20,139	19,742	19,190	18,674	18,889	18,704	18,287	86%
岐阜	20,995	20,556	20,803	20,703	20,500	20,053	20,003	19,556	18,816	18,258	18,594	18,290	18,215	87%
静岡	35,943	35,411	36,028	35,463	35,246	35,078	34,627	33,878	33,347	32,011	32,758	33,133	32,296	90%
愛知	72,408	72,889	74,440	73,613	73,278	72,501	71,165	69,965	69,554	66,999	69,390	69,825	69,449	96%
三重	18,208	18,113	18,360	17,786	17,828	17,465	17,374	16,895	16,554	15,841	16,317	16,133	16,036	88%
滋賀	14,220	14,276	14,533	14,404	14,311	14,488	14,320	14,100	13,884	13,379	13,889	13,763	13,857	97%
京都	24,309	23,786	24,577	24,100	24,102	23,646	23,105	22,332	21,840	21,692	22,006	21,777	21,600	89%
大阪	83,784	84,046	86,005	84,153	83,259	81,891	79,554	77,674	76,052	72,815	74,595	74,650	74,144	88%
兵庫	53,479	53,911	54,537	53,630	53,001	52,059	51,304	50,957	49,927	48,195	49,181	49,227	49,202	92%
奈良	13,810	14,003	13,931	13,804	13,287	13,330	12,791	12,637	12,085	11,764	12,035	11,967	11,534	84%
和歌山	10,248	9,926	10,000	9,700	9,495	9,299	8,838	8,607	8,102	7,884	7,947	7,955	7,993	78%
鳥取	5,681	5,475	5,422	5,472	5,510	5,379	5,218	5,302	5,111	5,006	5,008	5,020	4,791	84%
島根	6,793	6,594	6,520	6,443	6,448	6,480	6,210	6,024	6,025	5,673	6,042	5,918	5,752	85%
岡山	19,130	18,926	19,008	18,431	18,634	18,480	18,018	17,632	17,282	16,823	17,116	17,243	16,985	89%
広島	27,520	27,208	27,302	26,704	26,568	26,771	25,962	26,072	25,308	24,789	25,385	25,623	25,527	93%
山口	13,202	13,016	12,975	12,835	12,557	12,710	12,091	12,087	11,857	11,421	11,564	11,631	11,485	87%
徳島	7,202	7,022	7,155	6,928	6,977	6,867	6,609	6,466	6,334	5,969	6,142	5,979	5,977	83%
香川	9,269	9,433	9,668	9,513	9,573	9,288	9,327	8,993	9,042	8,603	8,605	8,714	8,678	94%
愛媛	13,151	13,169	12,924	12,473	12,528	12,170	11,824	12,501	11,941	11,427	11,821	11,760	11,546	88%
高知	7,074	6,781	6,620	6,663	6,578	6,559	6,204	6,091	5,830	5,780	5,831	5,671	5,761	81%
福岡	47,991	48,008	47,901	46,970	47,215	47,369	46,290	45,621	45,342	44,176	45,804	47,106	46,872	98%
佐賀	9,093	9,185	9,067	8,976	8,961	8,828	8,466	8,040	7,932	7,684	7,871	7,927	7,973	88%
長崎	14,718	14,255	14,271	14,019	13,492	13,403	12,743	12,537	12,219	11,986	12,136	12,090	12,115	82%
熊本	18,198	17,744	17,642	17,266	17,457	16,989	16,782	16,472	16,337	15,848	16,148	16,711	16,414	90%
大分	11,287	11,174	10,918	10,746	10,573	10,719	10,268	10,300	9,996	9,796	10,138	10,151	10,224	91%
宮崎	11,748	11,573	11,251	10,903	10,946	10,889	10,503	10,368	10,218	9,868	10,194	10,534	10,276	87%
鹿児島	17,055	16,733	16,407	15,970	16,232	15,958	15,652	15,416	15,130	14,808	15,094	15,201	15,356	90%
沖縄	17,239	16,625	16,977	16,774	16,875	16,922	16,387	16,290	16,339	16,019	16,590	16,775	17,102	99%
合計	1,195,913	1,185,612	1,193,714	1,175,065	1,169,747	1,161,275	1,134,223	1,122,017	1,097,275	1,061,776	1,088,705	1,090,569	1,082,772	91%

出典) 平成27年度学校基本調査速報